

Vol. 149

2017.2.14

理事長トーク Top Interview

第11回TQM活動発表セミナーを終えて

医療法人社団 健育会 理事長 竹川節男



平成29年2月4日（土）、品川プリンスホテルメインタワーにて、健育会グループ第11回TQM活動発表セミナーを開催しました。

今回のTQM活動発表セミナーには、審査員5名・ご来賓27名を含む約210名が集いました。今回の参加人数は、過去最大規模となり、また参加した職員の職種は、医師・看護師・薬剤師・放射線技師・臨床工学技士・理学療法士・言語聴覚士・作業療法士・介護福祉士・事務・管理栄養士・調理師・ケアワーカー・医療相談員・介護支援専門員と多種に渡り、そのことから多職種で取り組むTQM活動の広がりを感じました。

セミナーの冒頭、私からは以下のような話をしました。



我々のグループのTQM活動も11回目を迎えました。抄録を事前に見ましたが、内容も充実してきていると感じています。また、健育会グループが真剣にTQM活動に取り組んでいることが、世の中にだいぶ行き渡ってきたように感じられます。その結果だと思いますが、先日、医療のTQM推進協議会事務局より、再来年の「第21回フォーラム 医療の改善活動 全国大会」の大会長を健育会グループで引き受けてもらえないかという依頼がありました。場所は北海道か東北でということでしたので、石巻健育会病院を幹事病院として仙台で開催することにしました。その際には、いつもにも増して健育会グループから沢山の発表ができればと考えています。





さて、TQM活動というのは、一言で言えば改善活動です。もともとトヨタ自動車をはじめとする製造業で行われましたが、それが次第に医療業界で取り入れられ、盛んに行われるようになりました。病院においては、我々は医療が進歩する限り、仕事のやり方を改善していかなければいけない定めがあると思っています。

しかし、一人で改善活動をしようとしても、なかなかうまくいきません。やはりチームで改善活動をするのが、効率的で非常に有意義です。昨年は栄養関連の発表が多かったと記憶していますが、今年は抄録を見ると医療の質に関するものや、業務の効率化に関するものなど、非常にバラエティに富んだ活動が行われているようです。このことから、グループのTQM活動発表セミナーが11回目ということで、着々と全ての病院・施設に根付いてきていることを感じています。少ない人数の中、また日常業務の忙しい中で、このような活動に積極的に取り組んでいることに敬意を持ち、本日の発表を聴きたいと思います。



今回のTQM活動発表セミナーでは、茅ヶ崎セントラルクリニック 院長 阿部 重一先生が座長を務め、各病院・施設よりグループ内地区予選を勝ち抜いた、17の改善事例が発表されました。



前半の発表

1

その音なんとかなりませんか？ —騒音と病棟環境—
いわき湯本病院
noise busters (ノイズバスターズ)

2

食堂における、食事待ち時間の短縮
ライフケアガーデン熱川
MA・TA・SE・NA・I ～待たせない～

3

ベットメイキングにおける作業時間の統一
茅ヶ崎セントラルクリニック
茅ヶ崎おもてなし隊

4

インシデント報告書における記入時間の短縮
介護老人保険施設しおさい
SYM-STY

5

担当者制度の確立による 利用者満足度向上
ひまわり在宅サポートグループ
ナースインホーム ひまわり ひまわり娘。

6

吸引が出来るセラピストの育成システムの構築
竹川病院
カクタンGO

7

医事-薬局使用薬剤突き合わせ作業における
薬剤使用差異原因の追求
石川島記念病院 薬剤在庫管理研究会

8

居宅介護事業所におけるご利用者情報共有の確立
特別介護老人ホーム ケアポート板橋
舟渡居宅介護支援事業所 ケアカ(りょく)



後半の発表

| | | | |
|----|---|----|--|
| 9 | 施設理念実現にむけて ～情報共有改善への取り組みについて～ ライフケアガーデン湘南 チーム湘南 | 10 | セルフケアでの舌苔のあるご利用者 0名への取り組み 介護老人保健施設オアシス21 絶対 NO ZET隊!! |
| 11 | ヒヤリハットを書こう!! ケアセンターけやき 「そこのあなた、書いてますか」 | 12 | 施設内におけるアクシデント発生件数を減少させる 介護老人保険施設 しおん リスクマネジメント委員会 |
| 13 | 全館でとろみ濃度統一化を目指して 熱川温泉病院 とろみ隊 | 14 | 病棟生活におけるFIMの向上を目指して 花川病院 TO・I・RE♪ × 3 「We are perfect human」 |
| 15 | 褥瘡の早期発見 ～職員の意識の変化を目指して～ 西伊豆健育会病院 褥瘡いいんかい!? | 16 | 食事満足度を向上させよう ライフサポートひなた 満足させたい |
| 17 | 療養病院における 手指衛生遵守率の向上を目指して 石巻健育会病院 グッドタイミング | | |



座長の茅ヶ崎セントラルクリニック 院長 阿部先生から、全ての発表の終了後には演題に対する講評を頂いたのち、以下のようなコメントをいただきました。

TQM活動は回を重ねてまいりましたので、非常に発表の皆さんも慣れてきていると感じました。多彩なテーマ選定ができておりましたので、これからの取り組みに大いに期待しています。

また、当クリニックの話で恐縮ですが、「ベッドメイキングにおける作業時間の統一」の取り組みでは、今回初めて、外部のアドバイザー（一流ホテルの客室係の方）に力を借りました。このようにTQM活動を進める中で、異業種の方に教えていただくことが、我々の取り組みの中での技術向上に寄与すると感じましたので、是非参考にさせて頂けたらと思います。



全17事例の発表が終わった後、5名の外部審査員により別室で協議された結果、次の最優秀賞1題／優秀賞2題が選ばれました。

最優秀賞

吸引が出来るセラピストの育成システムの構築

竹川病院

カクタンGO

平成22年、厚生労働省医政局によりセラピストによる吸引が認められた。しかし、どのような教育・研修が必要なのかが規定されておらず、医療施設等に任されているのが現状である。そこで、より安全で質の高いリハビリを提供するという観点から、研修方法の確立を含めた「吸引が出来るセラピストの育成システム」を構築し、吸引ができるセラピストの輩出に取り組んだ。取り組み前は、リハビリ介入中に吸引が必要となる度に看護師に依頼していたが、吸引のできるセラピストの育成が継続的に行えるようになり、リハビリ介入中にセラピストが吸引を行うことで患者さんの苦痛の時間を短縮できるようになった。



優秀賞

病棟生活におけるFIMの向上を目指して

花川病院

TO・I・RE♪ × 3「We are perfect human」



実行能力を採点する病棟FIM（看護部が採点）と潜在能力を採点するリハビリFIM（リハビリ部が採点）に差が見られ、介助方法に差があることがわかった。リハビリ部と看護部の情報共有を密に行い、まずFIMの差が大きいトイレ動作・移乗の介助方法の統一を目指したところ、出来るADLとしているADLの差を縮めることができた。

優秀賞

医事-薬局使用薬剤突き合わせ作業における薬剤使用差異原因の追求

石川島記念病院 薬剤在庫管理研究会



医事薬剤請求量と薬局薬剤売上原価の差異原因の追究を行なった。「差異を特定する手段の確立」「現場在庫棚卸しルールの確立」「棚卸を1日で行い、棚卸後使用薬剤の把握方法の確立」などの対策を行い、差異原因を解明し、差異を減少させることができた。



審査委員長を務めて頂いた東邦大学医学部教授 長谷川 友紀先生からは、以下のような主旨のお話をいただきました。

非常に色々な観点から、多様なご発表をいただきました。皆さんもお聞きになって、医療・介護には、こんなたくさんの職種があり、色々な観点から物事を見ていらっしゃるということを再認識されたと思います。

この10年くらいで、地域包括ケアという考え方が出てきました。特に、大きく変わってきたのが、慢性期医療と介護であると思います。その中で、健育会グループのTQM活動発表セミナーも11回目ということで、その中の変化を反映するように変遷を遂げてきています。

私どもが審査で、何を重視するかということをお伝えしたいと思います。

まず一つ目は「目標」です。目標設定が大切です。医療・介護の質に関連した目標設定になっているか。そして、目標は一度決めたらすぐに諦めてはダメです。また逆に、1回で達成するような場合は、目標の設定が低いとも言えます。1回目の取り組みでダメで、目標を再設定して、2回、3回と取り組んで最後に達成というのが良いストーリーだと思います。

二つ目は、「多職種」です。TQMというのは、多職種で取り組むことに意義があります。

三つ目は、「仕組みとしての定着」です。後々までこの改善案が仕組みとして定着し、継続して取り組んでいけるかどうかということです。そのためには、情報や問題を共有して活動しているかも重要です。また、書類やカルテの形式を変えるなど、仕組みとして定着させることが大事だと感じています。

四つ目は、「応用」です。一つの知見・知識を得られたら、それが他にも利用できるという、応用可能性があるかどうかということです。それについて言及していただいているかについても、採点の視点になります。



セミナーの後には、懇親会を行いました。

懇親会の冒頭には、昨年から実施している介護施設の年間MVP賞の表彰式を行いました。これは介護施設で毎月実施している、『「挨拶が良くできている」「業務改善を率先して行っている」などのテーマを決めて全職員の投票でその月のMVPを決めている取り組み』の受賞者の中から、年間MVP賞を得票で決定し、受賞した職員の功績を讃えるものです。各施設から選ばれた職員に私から直接表彰状を授与しました。



その後、懇親会の乾杯のご発声は審査員を務めていただいた株式会社ビーフォーシー代表取締役 相部 博子様よりいただき、参加者全員で美味しい食事を楽しみながら交流のひと時を過ごしました。



今年のスローガン「一人ひとりの使命感が、ビジョン実現の原動力です。」の言葉通り、一人ひとりの職員が高い使命感をもち日常業務を行なっていることが、このセミナーを通じて感じられました。これからも日々の業務の質を向上し、ビジョン達成のために力を尽くしてほしいと思います。来年のこのセミナーでは新しい仲間が加わっています。多くの仲間を迎え、さらに活発な発表・議論が行われることを期待しています。